

公民連携によるスマートシティの 実現に向けた取組みについて ～兵庫県三木市のチャレンジ～



11 住み続けられる
まちづくりを

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

11 住み続けられるまちづくりを

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

2023プレゼン資料

兵庫県 三木市 総合政策部縁結び課
清水 暁彦

名称

SDGs11 いつまでも住み続けられるまちづくりをめざした『青山7丁目団地再耕プロジェクト』

実施地域

- ・三木市全域
面積:176.51km²
総人口:75,172人(令和4年4月末時点)
- ・プロジェクト実施地域
範囲:三木市青山・緑が丘地区
面積 km²、人口 14,598人(三木市全人口の約19.4%)
神戸電鉄粟生線緑が丘駅周辺の戸建住宅団地(神戸市のベットタウン)

■ 図表2-5 都市構想図

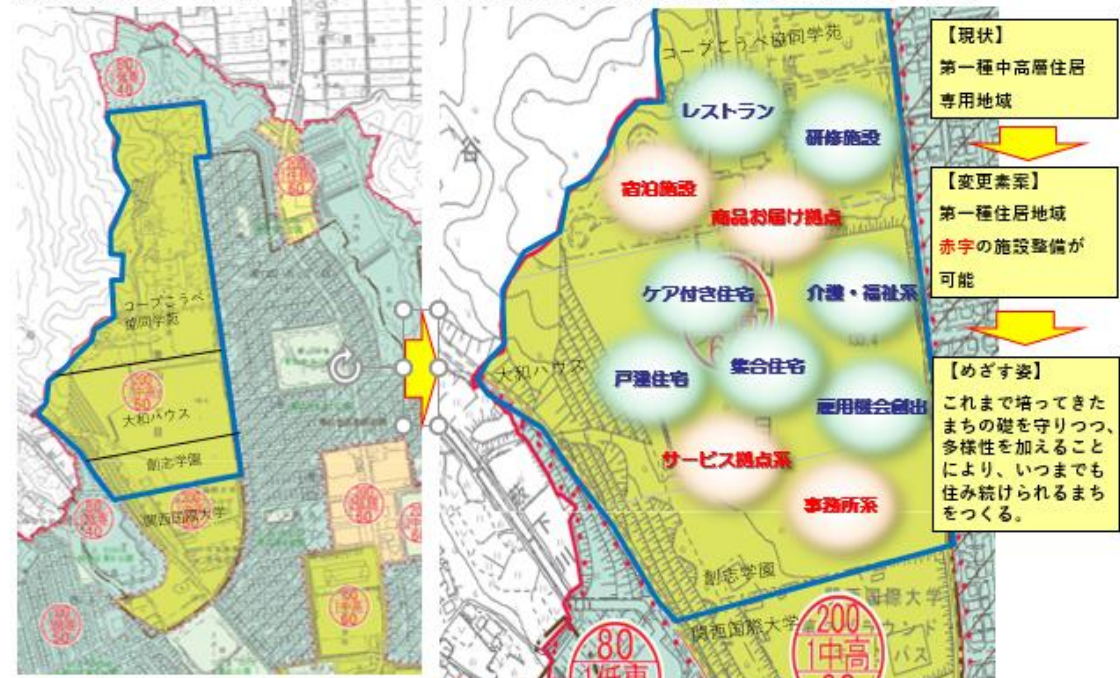


青山7丁目整備に伴う用途地域の変更について

2020年11月24日更新

用途地域見直しの範囲

7丁目全体が、連携し補完する建物用途イメージ図



■ 用途地域見直しの範囲

赤字：用途地域の見直しが必要な建物用途

※この資料は計画イメージです。今後条例との協議、法的、事業的な裏付けを進め、変更計画していくものです。

2023年度SDGs未来都市全体計画提案概要（参考）

提案全体のタイトル: 100年後も 誇りを持って暮らせるまち三木

提案者名: 兵庫県三木市

全体計画の概要: 人口減少に伴う課題に対し、三木市がもつ強みを生かしながら、2030年あるべき姿に『誇りを持って暮らせるまち三木』～チーム三木(市民・議会・企業・団体・行政)による協働のまちづくり～に向かって、行政のみでまちづくりを行うのではなく、チーム三木(市民・議会・企業・団体・行政)それぞれの力を連携し、自律的好循環を生み出し、三木市で暮らすことに誰もが誇りを持ち助け支えあい、人々が集うようなまちづくりを行う。

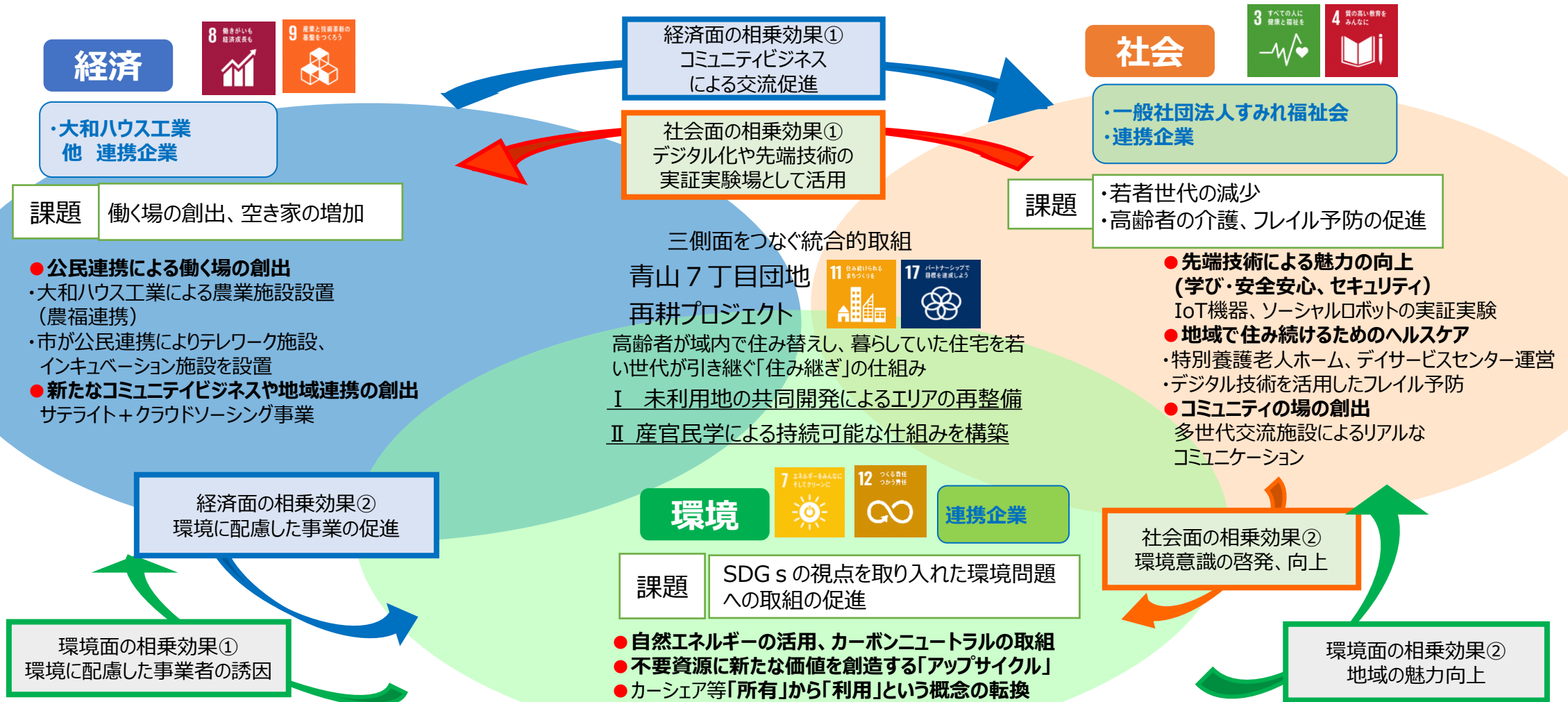
1. 将来ビジョン	地域の実態			2030年のあるべき姿
	<p>三木市は、都会（大阪から高速で1時間）にも距離的に近く、防災・文教施設も整備され、生活環境が整っていて、田舎暮らしの楽しさも味わえる場所である。兵庫県神戸市の北側に隣接し、大阪・神戸のベッドタウンとして発展してきた。「トカイナカ」ランキングで大阪圏で2位に選定され（2021年3月）、その住みやすさが評価されている。人口減少に伴う若者世代の流出や空き家等の地域の課題に対して「多世代の住民がいつまでも快適に暮らすことができる持続可能なまちづくり」を行う。</p>			<p>『誇りを持って暮らせるまち三木』～チーム三木（市民・議会・企業・団体・行政）による協働のまちづくり～ 行政のみでまちづくりを行うのではなく、チーム三木それぞれの力を連携しだれもが住みたくなる自律的好循環のまちづくりを実現する。</p>
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	<p>人口減少社会において行政のみでまちづくりを行うのではなく、住民や企業等の力も結集し持続可能なまちづくりを考えていく。優先するターゲットは、「住み続けられるまちづくりを」11.3、「パートナーシップで目標を達成しよう」17.17とする。</p>		<p>共通</p> 
	<p>社会:</p> 	<p>子どもから高齢者まで必要に応じた暮らしの支援</p>	<p>環境:</p> 	<p>カーボンニュートラルの取組推進</p> <p>経済:</p>  <p>人を呼び込む魅力あるまちづくり</p>
2. 自治体SDGsに資する取組の推進	自治体SDGsに資する取組	情報発信		普及展開性
	<p>次の2030年あるべき姿に向け、SDGsの理念に基づき各事業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 未来へつなぐ人と暮らしづくり【社会面】 安全・安心なまちづくり【環境面】 いきいき輝く魅力づくり【経済面】 枠組みを超えて取り組む三木づくり 	<p>市民、議会、企業、団体、行政それぞれがSDGsの理念を理解し、行動するため、様々なPR手段を使って、共通の認識を持ちSDGsの取組を推進していけるよう啓発を行っていく。連携大学、ステークホルダー（企業）を通じた発信。</p>		<p>郊外型住宅団地再生という全国初の新たなモデル（自治体SDGsモデル事業）は、新しい地域のコミュニティ、先進技術を活用した仕組みづくりにより人口減少や空き家といった共通の課題をもつ自治体への普及展開が期待できる。</p>
3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制		ステークホルダーとの連携
	<ul style="list-style-type: none"> 三木市総合計画 三木市環境総合計画 三木市創生計画人口ビジョン・総合戦略 その他各分野の計画 <p>SDGsの理念を反映し、目標やKPIを設定している。</p>	<p>①「三木市SDGs未来都市推進本部（仮）」を設置。市長を本部長とし、副市長、教育長及び部長級をもって構成する。②企画政策課を事務局とし、SDGs推進の統括を行い関係部署と連携・調整を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会など住民との連携 教育機関（大学・高校）との包括連携協定 企業と他分野で連携協定 <p>SDGsの理念に基づく事業を実施している。</p>
	自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	<p>2030年のあるべき姿にもある「チーム三木」の考え方により、多くの企業と連携協定を結ぶなどして、多くの力を三木市に取り込んでいく。それにより先進的なモデルを生み出すことでまちの魅力を上させ、さらに企業版ふるさと納税を活用し、三木市のSDGsの考え方に賛同する企業を呼び込む。SDGsモデル事業の郊外型団地再生プロジェクトにおいては、産民官学の連携により、取組を実施する。</p>		

2023年度自治体SDGsモデル事業提案概要（参考）

自治体SDGsモデル事業名：パートナーシップによる価値創出 多世代の住民が快適に住み続けられるまちの実現～郊外型戸建住宅団地再耕プロジェクト～

提案者名：兵庫県三木市

取組内容の概要：全国の郊外型戸建て住宅団地が抱える人口減少、高齢化、空き家等の課題解決のため、企業、大学等と連携した全国初の団地再耕の取組。域内でライフステージに応じ移り住む仕組みづくりに加え、データ活用や先端技術を取り入れた新たなサービスやライフスタイルにより、まちの魅力を向上しながら若者世代を呼び込み、「多世代の住民が快適に住み続けられるまち」をめざす。



LITE DXを活用した子どもたちの交通事故ゼロをめざすまちづくり事業(10月～)



国が進めるデジタル田園都市国家構想に係る取組として、三木市と連携協定を締結している株式会社アシックス及びTOA株式会社と連携して進める「LITE DXを活用した子どもたちの交通事故ゼロをめざす安全安心なまちづくり事業」が国に採択された。

子どもたちにデジタルセンサーを取り付けた靴を履いてもらい、交通事故が多い交差点等に子どもたちが近づくと、その交差点に設置するカメラ付きスピーカー(タウンレコーダー)から音声が流れ、歩行者や自転車及び自動車等へ注意を促すことで交通事故の発生を減らす実証事業を進めている。

チューングリボ

アシックスが開発を進める運動データや、位置情報及び時間データ等を記録・分析できるシステム。センサーが内蔵された靴またはバンドを着用し、受信器に近づくことで簡単にデータを取得できます。



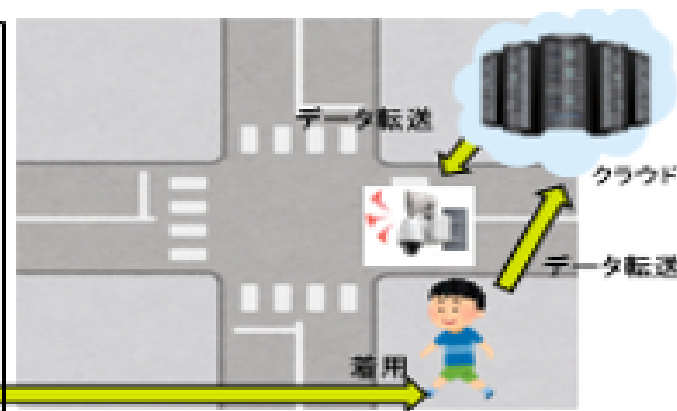
内蔵センサー



センサーシューズ



センサーバンド

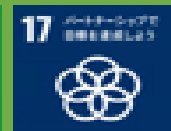
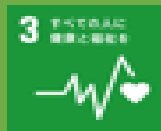


タウンレコーダー

カメラ一体型レコーダー。録画にも対応し、万が一交通事故が発生した際に、原因分析に使用して、今後の改善対策に活用します。

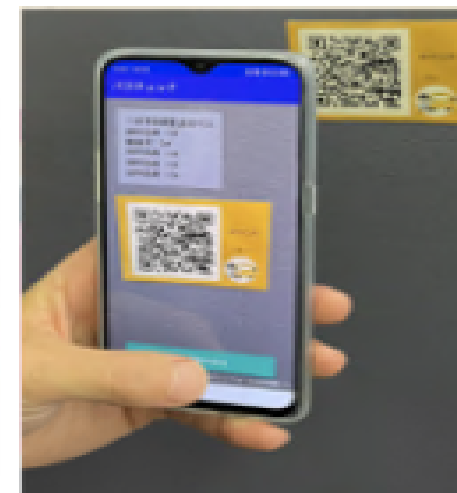


送迎用バス置き去り防止に向けた実証実験（12月～）



送迎用バスの児童置き去り防止に向け、デジタル技術を活用することで園児の安全安心の確保に加え、リアルタイムに確認通知メールが園や保護者に届くことによる安心感や、デジタルログを残すことで点検+報告を同時にワンストップで行い、保育園側の負担軽減を図る実証実験を進めている。

株式会社エヴィクサーが提供する「おりた～スマホで確認、届いて安心～」は、運転手やスタッフによるバス車内の見回りの際にスマホで車内壁面に貼られた複数の「GRコード」シールを読み取ることで、車内の園児の置き去りを確認したことが、リアルタイムに園関係者等に通知される仕組みとなっている。



関連意見

- ・令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

HYOGO TECHイノベーションプロジェクト (10月～)



県内の様々な社会課題・地域課題について、事業者等が有する情報通信技術を活用し、その課題解決を図っていくことを目的に、兵庫県によって「HYOGO TECHイノベーションプロジェクト」が発足された。

三木市は、聴覚障がい者が行政手続き等を行う際の、要約筆記者や手話通訳者によるサポート体制を構築しているものの、コロナ禍における常時マスク着用で口の動きが見えなくて会話が理解しづらくなった。また飛沫防止パネルの設置によりさらに聞こえにくくなったとのお困りの声を受けている。このような環境下で要約筆記者や手話通訳者のコミュニケーション支援要請が増えてきた。そのような中でも、誰1人取り残さないまちの実現をしたい思いから、身体障害者手帳を持っている。聴覚障がい者だけではなく、高齢の耳の聞こえにくい人の支援に係る取組を応募し、兵庫県から採択を受けた。

現在は、兵庫県及び株式会社時空テクノロジーズと協働し、AI文字起こしレコーダー「ログミーツ」を活用し、リアルタイムに音声を文字起こしできる技術を聴覚障がい者向けに調整することで、難聴者とのコミュニケーションを円滑にできるよう実証実験を行っている。



関連意見

・令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

名称
2025大阪・関西万国博覧会を見据えた地域資源を生かしたテロワール体験と広域によるインバウンドツーリズム創出事業

実施地域

- ・三木市全域
面積:176.51km²
総人口:75,172人(令和4年4月末時点)
- ・プロジェクト実施地域
範囲:三木市全域

■ 図表2-5 都市構想図



地域をつなぐ
テロワール体験



日本オラクル株式会社とスマートシティ推進に関する包括連携協定を締結(2月)



兵庫県が募集したスマートシティモデル地区に三木市が採択されたこときっかけに、デジタル技術を活用して人々にとって住みよい環境を実現する都市「スマートシティ」を推進し、一層の地域社会の発展と市民サービスの向上を図ることを目的として日本オラクル株式会社と「スマートシティ推進に関する包括連携協定」を締結。デジタルツイン※を活用した体験型ツーリズムとして、「旅マエ、旅ナカ、旅アト」を繋ぐ仕組みを構築し、地域の魅力をより広く深く発信し、人と人がつながる魅力的なまちの実現に向けて進めていく。
 ※現実世界で集めたデータを、デジタル空間上で再現する技術



実施地域が抱える課題

【行政手続きのデジタル化推進に係る課題】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけとして行政に求められるデジタル化、DX推進への取り組みに対して期待が高まっている。
- ・多様化複雑化する市民ニーズに対応すべく日々の業務に取り組んでいるところではあるが、能力の向上に合わせて新たな技術の活用が必要。
- ・高齢者や外国人市民の増加、マイナンバー制度の開始などのより業務内容が複雑かつ高度化している。
- ・スマートフォンの普及により便利なインターネット環境は身近なものになっているが、行政サービスとして誰もが簡単に利用できるサービスは限られているため、来庁者の負担軽減に向けた行政サービスのデジタル化による場所や時間にとらわれない市民サービスの向上に係る取組が必要である。
- ・窓口では料金支払いのキャッシュレス化が進んでおらず、待ち時間が発生しやすく市民サービスの向上やコロナ対策に関する取組が必要である。
- ・市役所内の各所管部署が個別に所有しているビッグデータを一元管理できていないため、将来に政策の立案に有効に利用できていない。

地域の将来像

三木市総合計画及び総合戦略では、社会保障人口問題研究所が示す将来人口予測によると2060年には人口4万人を下回るとの予測に対し、三木市総合戦略に位置付ける様々な事業を複合的に実施することにより、2060年に人口5万人をめざす目標を定め、職・住に係る新たな取組みを公民連携により進めて行くと定め、『誇りを持って暮らせるまち三木』の実現に向けた事業に枠組みを超えて取り組む三木づくりを位置づけています。具体的な取組みとしてAIやRPAなどのシステム導入やビッグデータの管理及び活用を行うことで、市民の利便性向上と業務の効率化、省略化を進めます。また、ガバメントクラウドを利用した災害に強い市役所を構築をめざします。

また、各所管部署が集めた統計資料をビッグデータとして分析することにより、各地区や自治体ごとの特徴を把握し、行政サービスに関する需要を見極め、今後の市政運営や地域のまちづくりに活用をすすめていく。

ビジョン・計画の名称、URL	分野横断プロジェクト 業務改善
----------------	-----------------

市民課・税務課窓口でのキャッシュレス決済対応レジ導入（1月）



市民課及び税務課の窓口でキャッシュレス決済に対応したレジを導入した。住民票や所得証明書などの各種証明書の交付手数料を支払う際に、クレジットカード、電子マネー、スマホアプリ決済などのキャッシュレス決済を利用することで市民の利便性向上及び職員の業務効率化を図る。あわせて、セミセルフレジ*の導入により、金銭の授受による市民と職員の接触をなくし、感染症予防に努めている。

※職員は、証明書の種類や金額の入力などの請求額の確定までを行い、来庁者側は、画面に表示された金額の支払い方法の選択、支払い、レシートの受け取りを行うもの。

